

2026年度 群馬大学出張模擬授業一覧（アドミッションセンター）

所要時間の記載がないものは、約50～60分の授業となります。

分野	授業題目	授業内容	講師	職名	備考
1 意思決定科学	意思決定科学への招待 ～基本的な考え方や進路選択への応用～	わたしたちの身の回りには、多種多様な意思決定が存在しています。意思決定科学は、現実の意思決定を改善するための多くの示唆を生み出しています。ここでは、“雨傘問題”を例として使いながら、その基本的な考え方を理解していただき、進路選択への応用について考えます。 【所要時間：80～90分】	富山慶典	名誉教授 元社会情報学部教授	プロジェクト、スクリーンを使用します。
2 意思決定科学	意思決定科学への招待 ～選択肢の多少に注目した進路選択問題へのアプローチ～	わたしたちの身の回りには、多種多様な意思決定が存在しています。意思決定科学は、現実の意思決定を改善するための多くの示唆を生み出しています。ここでは、意思決定科学の概要を学び、選択肢の多少問題にかんする研究成果を踏まえて進路選択問題へアプローチするときの方法について考えます。	富山慶典	名誉教授 元社会情報学部教授	プロジェクト、スクリーンを使用します。
3 意思決定科学、社会的選択理論	社会的意思決定論への招待 ～多数決をめぐる謎は解けるか？～	“防衛費を増額することに賛成ですか、反対ですか？”この問いに対する答えが割れそうなことは、恐らく誰にでも予想できるでしょう。このように人々の意見が異なるとき、それらの異なる意見だけに基づいて社会としての意思決定を行うには、どのようにすればいいのでしょうか？この社会的意思決定問題をめぐる研究の歴史は、さまざまな逆理の発見とその克服の試みの連続でした。ここでは、人々の異なる意見を集約する方法で、最もよく知られ使われている「多数決」にかかわるパラドクスを通して社会的意思決定の難しさを実感します。 【所要時間：80～90分版、50～60分版のどちらも可能です】	富山慶典	名誉教授 元社会情報学部教授	プロジェクト、スクリーンを使用します。
4 意思決定科学、心理学	意思決定の心理学 ～生存と死亡はオモテとウラにあらず！？～	意思決定の結果は、将来の自分や家庭・組織・地球などに大きな影響を及ぼしかねません。すぐれた意思決定をしなければならない理由が、ここにあります。それは、どのようなものなのでしょうか？この授業では、具体的な意思決定問題を自分で解いてもらいながら、それをめぐる心理実験の結果と理論を学び、どうしたら認知バイアスの影響を最小限に抑えて合理的な意思決定ができるようになるかを考えます。	富山慶典	名誉教授 元社会情報学部教授	プロジェクト、スクリーンを使用します。
5 化学、生物	光る分子を使って細胞の中を見る	人間の体は数十兆個ともいわれる膨大な数の細胞からできています。この細胞一つ一つの中では、絶えず様々な物質が作り出されたり分解したりして、体の機能が保たれています。細胞は目に見えないほど小さいけれども、いわば巨大な化学工場のようなものです。この授業では、光る分子と顕微鏡を使って細胞というミクロな世界を探る技術について紹介します。	飛田成史	名誉教授 元理工学部教授	プロジェクト、スクリーンを使用します。
6 起業・アントレプレナーシップ	群馬大学発ベンチャーの挑戦	世の中を変えるには新しいビジネスモデルの創出が必要です。本授業では群馬大学発ベンチャーの設立経緯とビジネスモデルを紹介し、社会課題に挑戦するマインドを醸成します。	板橋英之	副学長 アドミッションセンター長 理工学府教授	プロジェクト、スクリーンを使用します。
7 人生訓	研究者への道と教訓	演者が研究者になるまでに起こったエピソードとそこから得られた教訓を紹介します。「人生の価値は積分値で決まる」「楽より楽しい」など生徒の気持ちをポジティブにする話をします。	板橋英之	副学長 アドミッションセンター長 理工学府教授	プロジェクト、スクリーンを使用します。
8 環境	研究は楽しい	学生と一緒にやっている環境化学の研究を通して大学の研究室の様子を紹介します。また、学生の一言が思いがけぬ発見に繋がっている事例から、研究の楽しさをお話します。	板橋英之	副学長 アドミッションセンター長 理工学府教授	プロジェクト、スクリーンを使用します。
9 広報・PR論、メディア論	メディアと広報 ープレスリリースを書いてみようー	広報とは何か。新聞やテレビなどマスメディア向けの広報である「パブリシティ」と呼ばれる手法を中心に解説します。講師は新聞社などで記者、広報の実務経験があり、企業がマスメディアへ送付するプレスリリースへのタイトル付けも体験してもらいます。	宮本俊一	アドミッションセンター副センター長 アドミッション・コーディネータ 大学教育センター非常勤講師 社会情報学部協力研究員	プロジェクト、スクリーンを使用します。
10 メディア論、ジャーナリズム論	伝わる文章について考える	どうすれば人に伝わる文章を書くことができるのか。マスメディアの記者が書く記事に焦点を当て、記事や文章を書く上でのポイントを具体的な事例を示して学び、伝わる文章について考えていきます。現代メディアの概観についても触れます。元新聞記者が講師を務めます。	宮本俊一	アドミッションセンター副センター長 アドミッション・コーディネータ 大学教育センター非常勤講師 社会情報学部協力研究員	プロジェクト、スクリーンを使用します。
11 ビジネススキル	企画の立て方・考え方	AIが進化するこれからの社会にとって、業界問わず企画を立てる力はビジネススキルの要諦であろう。どうすれば人を動かす企画書になるのか。企画を立てる上での基本的な考え方や実践的なポイントについて、新聞記者、企業広報、大学広報の実務経験をもとにお話します。	宮本俊一	アドミッションセンター副センター長 アドミッション・コーディネータ 大学教育センター非常勤講師 社会情報学部協力研究員	プロジェクト、スクリーンを使用します。